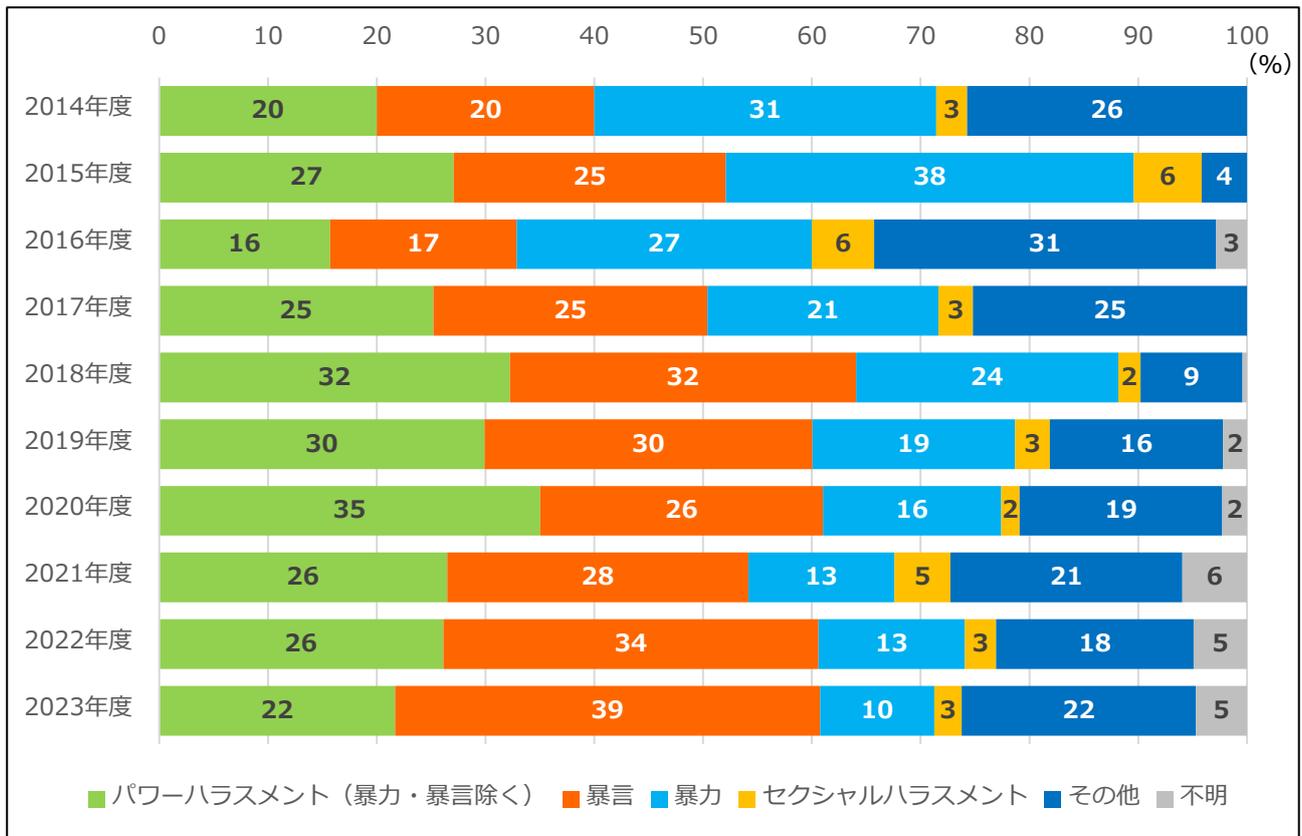
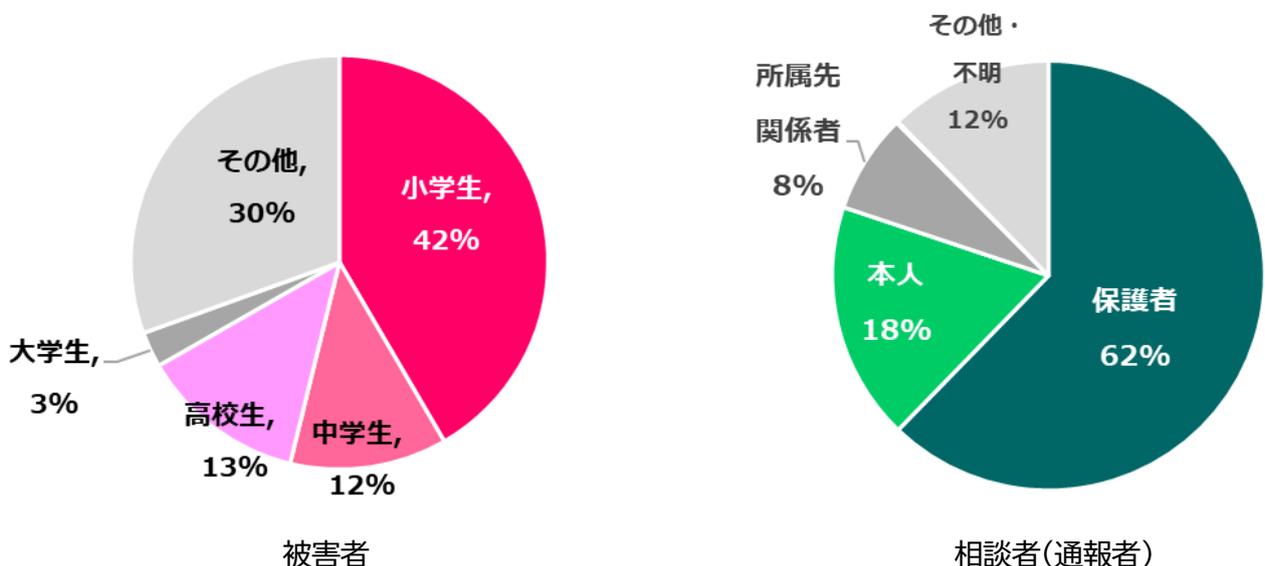


◆JSPO 相談窓口寄せられた相談内容内訳割合の推移

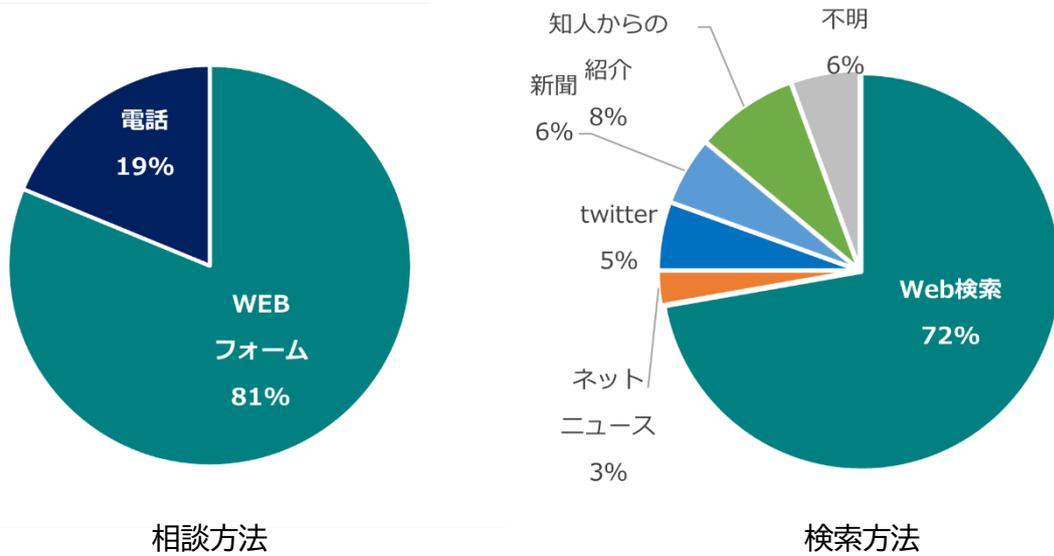


実際に寄せられた相談の内容としては、暴力の相談が減少していると言いつつも「顔を叩く」といった暴力行為や、暴言においても「バカ、アホ、ヘタクソ」など侮辱するような言葉や「お前なんか知らない」などの発言によるものがありました。

◆JSPO 相談窓口寄せられた被害者および相談者(通報者)の内訳
 (※2014年度以降の累積数の内訳)



◆2023年度子どもから寄せられた相談状況の概要

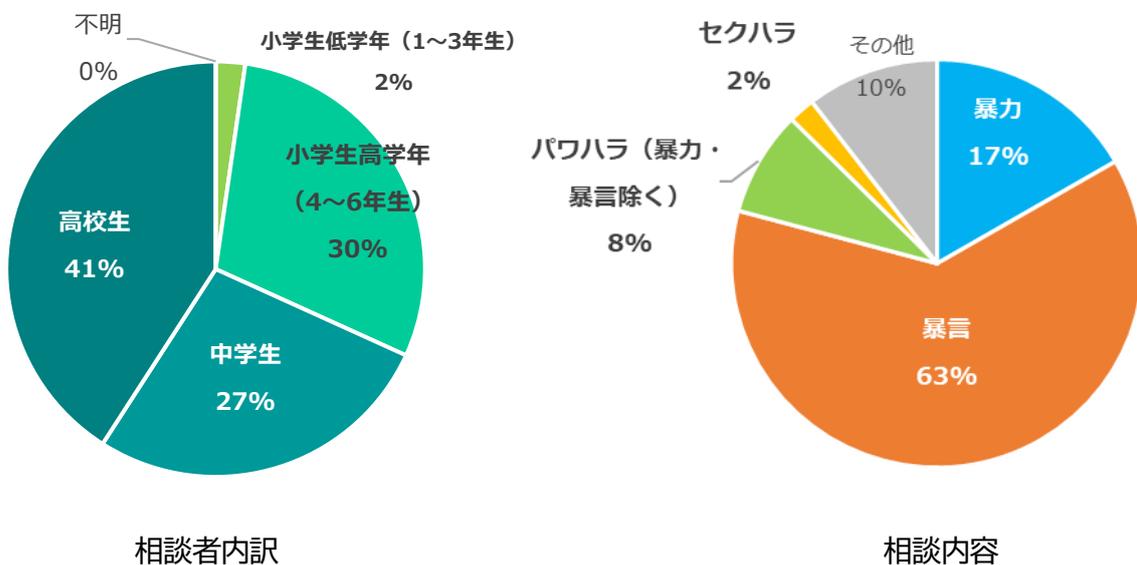


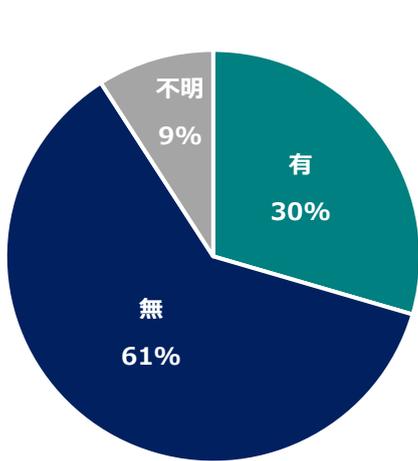
【子どもたちが相談するにあたり、Web で検索したキーワード】

監督 暴言 処罰／指導者 暴言／暴言 スポーツ パワハラ 相談／部活不適切な指導処分／部活動パワハラ 相談 高校部活動パワハラ 部活動パワハラ 死にたい／いじめ、モラハラ、精神科、慰謝料請求／部活 外部コーチ 辞めさせる／〇〇(競技名)コーチのパワハラ訴える方法／コーチ 暴言 ひどい／〇〇(競技名) 暴言 助けてほしい／部活辛い 部活辞めたい 相談窓口 など

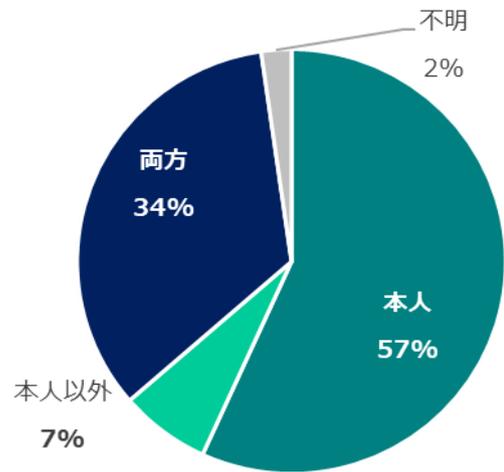
子どもからの相談は電話よりも Web による相談が大半で、JSPO 相談窓口を知ったきっかけも、「Web 検索」と回答した割合が高くなりました。

子どもたちが相談するにあたり、Web で検索したキーワードをみると、スポハラへの被害に苦しむ切実な声が寄せられています。





保護者への相談の有無



被害者(相談者本人・本人以外、両方)

相談者の年代は小学校高学年～高校生まで幅広く、相談者の3割は保護者に相談した後にJSPO相談窓口へ連絡してきていますが、約6割の子どもたちは保護者に相談していない状況で、JSPO相談窓口へ連絡をしてきていました。

相談内容としては、暴言が最も多く、次いで暴力、パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメントの順となっています。

被害者も相談者本人の場合が約6割ですが、友人が被害にあっているなど本人以外のケースや、本人およびチームメイトが被害者となっているなどの相談も寄せられています。

以上